

とがち帯広FC (十勝トレセンU-12)

第27回船越さくらカップ報告書



大会結果

☆予選リーグ

| | | | |
|------|---------|-----|---------------------|
| 第1試合 | とがち帯広FC | 2-1 | 有度フットボールクラブ (静岡県) |
| 第2試合 | とがち帯広FC | 6-0 | 興津サッカースポーツ少年団 (静岡県) |
| 第3試合 | とがち帯広FC | 4-2 | HIP. SC (神奈川県) |

3勝で決勝トーナメントへ

☆決勝トーナメント

| | | | |
|-------|---------|-----|---------------------|
| 準々決勝 | とがち帯広FC | 2-0 | 新座片山FC (埼玉県) |
| 準決勝 | とがち帯広FC | 1-2 | 横浜すみれサッカークラブ (神奈川県) |
| 3位決定戦 | とがち帯広FC | 1-0 | ダイナモ川越東 (埼玉県) |

参加32チーム中 第3位

2016. 4. 2~3

日本平IAI スタジアム他

報告者 十勝少年サッカー連盟技術委員長 喜多 進
担当コーチ代表 喜多 翼

はじめに

静岡遠征の出発式の際、担当コーチから2つの話があった。

サッカーの先進地静岡に行き、地元静岡のチームはじめ全国の強豪チームと試合をすることによって大きな刺激を受けること。そして、これまでに積み上げてきたトレーニングの成果を発揮し、「チーム十勝」として最後まであきらめずに戦い、十勝トレセンとしての今後の課題を確認することである。

遠征直前のトレーニングでは、白樺学園の協力を得てグラウンドでのトレーニングをすることができた。トレーニングの中では、狭い屋内でのサッカーではないので、優先順位を考え大きな展開を意識すること。味方・相手・ボール・スペースなどをよく見て、自分自身で状況を判断してプレーを選択することを中心に指導した。選手の動きも良く、静岡での活躍を予感させるトレーニングとなった。

この遠征では、大会前日の1日（金）には、奈良の強豪スクデッドと練習試合をすることができ、2日間の大会で6試合、そして4日（月）には、川崎で地元クラブチームの新中1のメンバーと練習試合をすることができた。

今年のメンバーは、例年に比べるとかなり小粒な選手が多く、遠征前はやや不安もあったわけだが、目標であった日本平IAIスタジアムで全員がピッチに立って試合を経験でき、いろいろなグラウンドコンディションの中での試合を経験することで、個々のプレーの向上のみならず、チームとしてのまとまり、更には精神的なたくましさも感じることもできたのは大きな収穫であった。

簡単ではありますが、2日間のとかちイレブンの奮闘と、成果と課題をまとめましたので参考にさせていただいたら幸いです。

4月2日（土）

☆予選リーグ第1試合 とかち帯広FC 2-1 有度フットボールクラブ(静岡県)

初戦の相手は、ホームチームとあって試合開始早々からアグレッシブにプレッシャーをかけてきた。前日に船越少年団のご尽力で奈良のスクデッドと練習試合をしたものの、久しぶりの緊張感ある中での試合ということでパスがつながらず、試合序盤は相手ペースで試合が進む。やや硬さも取れ始めた13分、コーナーキックの折り返しを13番が決める。15分にはしっかりとパスをつなぎ相手を崩し6番が追加点を奪う。後半1分に、FKを直接決められたものの2-1で勝利する。

○ボールを奪う場面は、人数をかけてという意識が高くトレーニングの成果が出た。

△浮き球に対する体の寄せが甘い。

△中盤が詰まった時に、DFを経由して逆サイドにボールを回すことができなかった。

☆予選リーグ第2試合 とちぎ帯広FC 6-0 興津サッカー少年団（静岡県）

初戦とメンバーを入れ替える。そのフレッシュな選手たちを中心に、積極的にボールを奪いに行く。得失点差のことを考えると大量得点が欲しいところだが、ベンチからはあわてずしっかりとボールをつなぐよう指示が出る。2分、11番がヘッドで決める。5分に13番、15分に6番が決め3-0で後半を迎える。後半もメンバー交替で入った選手が活躍する。6分に14番、15分に9番、16分に2番が得点を重ね6-0で勝利。

○ゴールに向かう意識、シュートの意識が高かった。

△キックの精度が低い。（シュートかクロスか、味方のどちらの足を狙ったの？）

△仲間を使う意識が低い。（状態がいいのは自分？ それとも味方？）

☆1次リーグ第3試合 とちぎ帯広FC 4-2 HIP. SC（神奈川県）

2年前に準々決勝で敗れた相手。足元がしっかりとしている好チームである。決勝トーナメントに進むためには勝つしかないという状況の中で立ち上がりから積極的にボールを奪い、相手ゴールに迫るとちは、5分、11分に11番がゴールを奪う。15分には、コーナーキックのチャンスから16番が見事なボレーシュートを決める。後半に入ると、流れは相手チームに傾く。3分に失点。その後もピンチが続く中、8分に10番がFKを決める。終了間際にコーナーキックから失点するも4-2で勝利する。

○ファーストDFがしっかりと狙っていたので、セカンドDFが対応しやすかった。

○前半は、DFライン含めてボールをつなぎ、しっかりと動かすことができた。

△相手が攻め続けているときに、どのようなサッカーをすべきか。（相手が前がかりのときに、優先順位は「足元」ばかりか、「相手の裏」か。）

4月3日（日）

☆決勝トーナメント1回戦 とちぎ帯広FC 2-0 新座片山FC（埼玉県）

12月のチャンピオンズカップを含めてよく対戦するチームである。今年のチームも、ゴールに向かう姿勢がすばらしく、球際も空中戦も強かった。日本平スタジアムをかけた厳しい試合になった。グラウンドは朝からの雨の影響で水が浮くコンディションであったが、11分に13番が先取点を挙げた。続く17分、オーバーラップした13番にタイミングよく8番からパスが通り、センターリングを16番が合わせる。しっかりと相手を崩した見事なゴールであった。後半も相手の反撃を0に抑え、2-0で準決勝に進む。

○長いボールに対する対応、浮き球への対応が改善された。

○DFからの攻撃参加（特にサイド攻撃）が効果的だった。

△（難しいことだが）グラウンド状況に合わせた対応。

☆決勝トーナメント準決勝 とちぎ帯広FC 1-2 横浜すみれクラブ(神奈川県)

準決勝の相手となる横浜すみれは、近年この大会で好成績を残している強豪チームである。今年のチームもトップと中盤に身体能力が高い選手がそろい、個人技だけでなく組織としても完成度の高いチームであった。1分、警戒していた選手にサイドを突破され失点する。8分にも、DFの対応の遅れから失点する。後半に入り、システムを変えたとちぎは、徐々にペースをつかみ攻撃の時間が増える。5分、13番が粘り強く押し込み1点を返す。その後も相手ゴールに迫る場面が続くが1-2で敗れる。

○あきらめずに最後まで相手ゴールを目指すことができた。

△1対1の対応～ドリブルの上手い選手に対し、簡単に足を出してしまい抜かれる。

△相手ボールになった時のDF意識、立ち位置。

☆決勝トーナメント3位決定戦 とちぎ帯広FC 1-0 ダイナモ川越東(埼玉県)

3位決定戦の舞台は、何度もJリーグのベストピッチ賞に輝いている日本平IAIスタジアム。スタジアムにつながる坂道は桜満開。とちぎの前途を祝しているかのようだった。試合前に、前後半でメンバーを総入れ替えし、全員で戦うことを確認する。前半4分、右サイドでボールを受けた6番が見事なミドルシュートを決める。その後も素晴らしい芝、広いピッチで伸び伸びとプレーし、相手ゴールに迫るとちぎだが追加点は奪えない。後半は、やや押し込まれる場面もあったが、全員で良く走り1-0で勝利する。32チーム中見事3位となる。2日間で6試合、メンバー全員で勝ち取った3位であった。

○日本平IAIスタジアムのすばらしいピッチに全員が立てたことが大きな財産。

○6試合目であったが、最後まで走りつづけることができた。コンディショニング。

△ボールを受けてから考える選手。相手に詰められてボールを簡単に失う。

おわりに

十勝トレセンU-12の新6年生チームは、4年生の秋から活動が始まり、年2回の選考会を経ながら、レベルアップを図ってきました。特に今年1月に空知で行われた「北海道トレセンU-11交流会」では、積極的にゴールを目指すことや、素早く相手ボールを奪いに行くことがある程度成果として表れた反面、状況を判断したうえで両サイドをワイドに使った攻撃を展開することや、グループとして連動して相手ボールを奪う守備に課題があると分析し、限られた時間と施設の中で改善に向けたトレーニングを行ってきました。その成果を試すという意味でも、今回の遠征は非常に有意義なものとなりました。

今回の大会は11人制ということもあり、人数が増えることでスペースが限られ、ゴールに迫るためにはより良い判断が大切となります。大会序盤こそ前に急いでしまいチャンスを作りきれない場面が続きましたが、試合をこなすごとにボランチ、あるいはDFラインを経由して広大なスペースのある逆サイドに展開し、意図的にチャンスを作るという場面が増えてきました。また、前線からの素早い1stディフェンスができる場面が多々あり、それに対応して2nd以降の選手が積極的にインターセプトを狙うという場面も増え、多くの成果が見られたと感じています。

課題としては、相手のアプローチが速くなったときの判断やプレーの質、ピッチ全体を更に「観る」習慣をつけるといった部分が挙げられます。これらの課題を「チーム十勝」として共有し、今シーズンを通して改善を図っていけば、更に大きな成長が見られるものと期待しています。

そして、今回の遠征で最も大きな成果としてあげられることが「フェアでタフなプレー」と「チームの一体感」です。全国各地のチームとの対戦ということで、十勝あるいは北海道では経験できないような厳しいプレーを実際に体感することができました。ユニホームを掴む、あるいは審判にクレームをつけるという相手選手が多くいる中で、十勝の選手はそれに一切ひるむことなく、正当なプレー、クリーンでタフなプレーで応戦していました。また、参加した20名全員が一体となって試合に臨み、ピッチの中で積極的にコミュニケーションをとるだけでなく、自然発生的にベンチからも励ましや称賛の声があがるなど、とてもトレセンとは思えないようなチームの一体感を感じました。この部分は十勝の少年サッカー界にとって大切なストロングポイントだと捉えています。今後も各チームの指導者の皆様と協力し、十勝の子どもらしい「素直でひたむきな」「相手・審判をリスペクトする」「仲間を大切にする」選手を、育て続けていければと思っています。

なお、今回の遠征の実施にあたり、船越サッカー少年団さん、旅館日本閣さん、神奈川のリーベルプントさんをはじめとした多くの関係者の皆様の歓迎を受けまして、とても充実した遠征となりました。本当にありがとうございました。

終わりにになりましたが、この遠征に際しまして、十勝地区サッカー協会をはじめ、十勝少年サッカー連盟、各単位少年団関係者の皆様方、そして保護者の皆様方には、多大なご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今後も、十勝地区のレベルが更に高まっていくように、スタッフ一同努力いたしますので、引き続きご指導、ご協力をお願いいたします。

参加選手20名へのコメント

- ① 安定したセービングと、積極的な飛び出しで多くのピンチを防いでいました。DFラインの選手と連携をとり、更に高い位置をとって攻撃にも関わられるようにしましょう。
- ② 試合ごとに球際の部分で強さが出てきました。オンのときによく観ているところもグッドです。守備のときは良い立ち位置から積極的にインターセプトを狙いましょう。
- ③ 持ち前のスピードを生かしたドリブルが十分に通用していました。準々決勝のアシストは見事でした。今後はドリブルができない状況での判断の質を高めていきましょう。
- ④ 日本平のピッチではスピードを生かしたプレーでゴールに迫りました。最終日の練習試合では競り合いに負けられないようになってきたので、今後も強い気持ちでチャレンジしましょう。
- ⑤ DFラインの中心としてカバーリングや、ビルドアップで大きな成果が見られました。ボールが前に進んだときはラインをアップすることで、セカンドボールを狙いましょう。
- ⑥ ボールを持ったときに強気で仕掛けるプレーや、競り合いの強さで右サイドを制圧することができました。常に多くのことを観て状況を把握し、より良い判断ができるようにしましょう。
- ⑦ 中盤の位置で相手ボール保持者に対してアプローチし、相手の攻撃を遅らせることができました。自分がボールを受けたときに広いサイドに展開できるように、良い準備をしましょう。
- ⑧ 中盤でバランスを取りつつ、攻守においてたくさんボールに関わることができました。シュート・パス・ドリブルの何でもできるようなボールの置き方やドリブルの速度を意識しましょう。
- ⑨ スピードを生かして相手ゴールに迫る場面が随所に見られました。前線から粘り強くディフェンスをするという部分も最終日の練習試合で改善が見られたので、今後も意識し続けましょう。
- ⑩ 主将として見事にチームをまとめあげたことは称賛に値します。精度の高いキックでチャンスを作っていました。浮き球や競り合いの部分の強さを身につけ、より怖い選手になりましょう。
- ⑪ 前線からの素早いディフェンスと、ゴール前での貪欲な姿勢でチームに貢献しました。味方からの縦パスを確実におさめるために、動きだしのコースとタイミングを意識しましょう。
- ⑫ ボールを受けて冷静に相手選手をはがすことができ、見事に十勝の攻撃の起点となっていました。ボールを持つ場所によってどんなプレーをすべきかを考え、有効なプレーを選びましょう。
- ⑬ 献身的な守備と、相手のラフプレーにも負けない強さ、そして大切な場面でのゴールゲットが光りました。味方からのロングボールを正確に収める場面が増えると、更に存在感が増します。
- ⑭ ボールを受けたときに持ち味であるテクニックを駆使して、攻撃のアクセントとなっていました。長い時間ボールを持つためにも、前線での守備や競り合いの強さを身につけましょう。
- ⑮ 空中戦での強さやあきらめないカバーリングで、多くのピンチからチームを救いました。ボールを奪ったあとの判断・プレーの質を高め、自分の良い守備を良い攻撃につなげましょう。

- ⑩ 球際での強さやボールを持ったときの落ち着いたプレーがチームにリズムを与えました。逆サイドからの攻撃参加もグッドです。同サイドが詰まった時に逆へ展開する意識を高めましょう。
- ⑪ 裏のスペースを使わせないことを考えた堅実なプレーが見られました。攻撃に関わる姿勢も見られたことも成果です。球際の部分で負けない強さを身につけ、よりボールを奪いましょう。
- ⑫ ボールを持ったときにあわてずに味方選手を見つけることができました。相手ボールのときに積極的にインターセプトを狙う意識を高め、自分がボールを持つ時間を増やしましょう。
- ⑬ サイドバックとして攻撃の第一歩となる良いパスを味方に通すことができました。守備のときに相手との間合いを更に短くし、より相手にプレッシャーを与えられるようにしましょう。
- ⑭ 恐れずに勇気を持って飛び出すプレーで、決定的なピンチをいくつも防ぎました。DFとGKの間に飛んできたボールの対応が的確にできるように、更にDFの選手と連携をとりましょう。

